（別紙様式4）

令和6年7月31日

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
東放学園映画専門学校	昭和59年4月2日	松島 司	〒 160-0023 （住所） 東京都新宿区西新宿5-25-8 （電話） 03-5333-5080
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人東放学園	昭和54年4月1日	斉藤 晃	〒 168-0063 （住所） 東京都杉並区和泉2-4-1 （電話） 03-3378-7538

分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度
文化・教養	芸術専門課程	映画制作科	平成 7(1995)年度	-	令和 3(2021)年度

学科の目的	映画業界へ進む強い意志と時代に応じたスキルを備えた次世代を担う現場スタッフを育成することを目的とする。
学科の特徴（取得可能な資格、中退率 等）	◎中途退学率:8.3%、◎取得可能資格:映像音響処理技術者資格認定試験、情報処理検定(表計算)、日本語ワープロ検定、秘書検定 ・2015卒業制作作品「溶ける」 第70回カンヌ国際映画祭 ｼﾈﾌｫﾝﾀﾞｼｵﾝ2017 正式招待、他国内5賞受賞 ・2016卒業制作作品「チョンティチャ」 第29回東京学生映画祭ｸﾞﾗﾝﾌﾟﾘ受賞 ・2017卒業制作作品「幸福な、」 第4回ﾛﾝﾄﾞﾝ東ｱｼﾞｱ映画祭2018 招待上映、第5回なら国際映画祭2018NARA-wave入選他入選実績あり ・2017卒業制作作品「すばらしき世界」 第40回ぴあﾌｨﾙﾑﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙ PFFｱﾜｰﾄﾞ2018 審査員特別賞、映画ﾌｧﾝ賞（ぴあﾆｽﾄ賞）受賞等 ・2019年度卒業制作「タヌキ計画」 第42回ぴあフィルムフェスティバル PFFアワード2020ノミネート ・2020年度卒業制作「むすんでひらいて」第32回東京学生映画祭」 ノミネート、真夏のミライ映画フェス2022 エンゲージメント率1位 ・2020年度卒業制作「やくそく」「Florence Film Awards」-November 2020- グランプリ＆ベスト学生映画（イタリア）他受賞 ・2021年度卒業制作「MY HOMETOWN」第14回下北沢映画祭 実写部門グランプリ、第27回あいち国際女性映画祭2022 グランプリ、第32回ゆうばり国際ファンタスティック映画祭2022 ゆうばりホープ、第23回TAMA NEW WAVE 入選、第11回関西学生映画祭 審査員賞授業、東京インディペンデント映画祭2022 グランプリ受賞など

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	1,700 単位時間	390 単位時間	1,040 単位時間	710 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			単位	単位	単位	単位	単位	単位

生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数（生徒実員の内数）(B)	留学生割合(B/A)
144 人	146 人	47 人	32 %

就職等の状況

■卒業者数 (C)	73	人
■就職希望者数 (D) :	39	人
■就職者数 (E) :	36	人
■地元就職者数 (F)	35	人
■就職率 (E/D)	92	%
■就職者に占める地元就職者の割合 (F/E)	97	%
■卒業者に占める就職者の割合 (E/C)	49	%
■進学者数	3	人

■その他

・映画業界は、フリーランスで活動される方が多く、学生の志望に合わせた進路指導で対応している。（フリーランス就業者：21名）
※上記の数値は就社者数のみであり、フリーランスでの就業した者や進学者を加算すると名となり、卒業者に占める進路決定者の割合も.%となる。
（令和 5 年度卒業者に関する令和４年５月１日時点の情報）

■主な就職先、業界等

（令和5年度卒業生）

㈱FILM、㈱クレイジー・ティブィ、㈱TREE Digital Studio（CRANK）、㈱三和映材社、㈱アーチェリープロダクション（東京支社）、㈱studio K、㈱博報堂プロダクツ、㈱東京オフラインセンター 他(順不同)

第三者による学校評価

■民間の評価機関等から第三者評価: 無

※有の場合、例えば以下について任意記載

評価団体： 受審年月： 評価結果を掲載したホームページＵＲＬ

当該学科のホームページURL

https://www.tohogakuen.ac.jp/movie/digital/

企業等と連携した実習等の実施状況（Ａ、Ｂいずれかに記入）

（Ａ：単位時間による算定）

総授業時数	2,140 単位時間
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間
うち企業等と連携した演習の授業時数	60 単位時間
うち必修授業時数	60 単位時間
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	60 単位時間
（うち企業等と連携したインターンシップの授業時数）	単位時間

（Ｂ：単位数による算定）

総授業時数	単位
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位
うち必修授業時数	単位
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位
（うち企業等と連携したインターンシップの授業時数）	単位

教員の属性（専任教員について記入）

① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	（専修学校設置基準第41条第1項第1号）	5 人
② 学士の学位を有する者等	（専修学校設置基準第41条第1項第2号）	9 人
③ 高等学校教諭等経験者	（専修学校設置基準第41条第1項第3号）	0 人
④ 修士の学位又は専門職学位	（専修学校設置基準第41条第1項第4号）	2 人
⑤ その他	（専修学校設置基準第41条第1項第5号）	1 人
計		17 人

上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね５年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数	8 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

高度な実践力や威力の発揮に欠かせない人間性や自立心を育み、環境や技術等の変化が著しい当該業界において順応力を持った人材を輩出するために、①学生が享受すべき知識や技術について、連携企業との日常的なコミュニケーション・意見交換を通じて、教育課程の編成や教育環境の構築に関して、積極的に反映させる事。②就職先ともなり得る連携企業に所属する社員を講師として招聘し、実習・演習授業において実利性・専門性が高いカリキュラムを構成する事。以上を、企業等との組織的な連携の基本方針としている。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

学校長を委員長とし、以下、教務教育部長の他、学科運営を主たる業務とする学科主任を学内の委員とし、学科が委嘱する業界企業の方と業界関連団体に所属し、実践の環境を熟知し、あるいはそれらを俯瞰し統括する立場の方を学外の委員として構成している。

学外委員からは専門分野に関わる人材の育成に有用なご意見や改善点、新たな施策を提示して頂き、当該業界の動向や変化等について、学内委員からは学事や学生の動向等について意見交換を行い、積極的な情報共有を図る。また、カリキュラムのあり方や授業の構成について、同業界において求める人材像や育むべき人間性や実践力について等、これらの具体的要件に関しても意見交換や議論を行い、教育課程決定の基とする場として位置付けている。

当委員会の内容は、学内委員により学科毎に実施されているカリキュラム会議で発議がなされ、学科担当職員との意見交換を経て、重要度の高い項目等から教育課程の編成に取り入れられる。反映された項目は、次回以降の同委員会でフィードバックがなされ、今後の会議運営に役立てる事とする。以上を教育課程の編成に関する意思決定の過程としている。

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年4月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
水谷　俊之	日本映画監督協会　常務理事	令和6年4月1日～令和7年3月31日（1年）	①
畠山　宗之	東映株式会社 東京撮影所　スタジオ営業部ポスプロユニット	令和5年4月1日～令和7年3月31日（2年）	③
松島 司	東放学園映画専門学校　学校長		―
蒲田 直樹	東放学園映画専門学校　副校長		―
柳田　晃寿	東放学園映画専門学校　教務教育部長		―
鈴木 壮一	東放学園映画専門学校　映画制作科　学科主任		―
浅沼　直也	東放学園映画専門学校　映画制作科　学科担当		―
青柳　高広	東放学園映画専門学校　学務管理部長		―

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。）

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

（年間の開催数及び開催時期）

年2回　（7月、2月）

（開催日時（実績））

第1回　令和6年7月14日　14:00～16:00（オンライン）

第2回　令和7年2月15日　13:00～15:00（オンライン）

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

各委員からの提案内容や委員会での決定内容等に関しては、各学科の担当職員を中心に構成されるカリキュラム会議等において、
次年度以降の教育課程の編成や、当該年度の授業内容に具体的に反映させている。
【本学科への意見・改善案等（抜粋）】
意見等：映画制作全工程を学ぶカリキュラムは非常に良いと思う。好きから始まり、職種を知り、自身で選ぶという流れは非常に良いと思うので、在校生に可能な限り多くの職種を知る機会を提供してみてはどうだろうか。また、進路を考える授業においても、本校の強みでもある卒業生を様々な職種で多く紹介し、学生の職種理解を深めてたり、インターンシップの活用でより充実した職種選びができるのでは？
改善点：業界の職種理解は、今後も課題となるため、担当教員間でもミーティングを重ね検討していく。インターンシップを授業科目化するには時期を含めた設定条件が必要となるため、今後どのように取り組むかを検討していく。
意見等：実習授業においてはアクティブラーニング型が学生たちを飽きさせないテクニックだと思う。先生が一方的にやって見せる授業、話す授業にならないよう工夫が必要。
改善点：専門学校であるため、極力実習、演習系授業を広く展開し、学生たちに学ばせたいこともあるので、次年度は段階を踏んだ実習系授業を多く取り入れてみる。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

①業界の多様化に併せる事を目的とした映像技術全方位的な教育、技術革新と多様化が進む現場に対応する教育等を重点項目としている本学科において、これらの目的を達成するため、映画・テレビ・インターネット、撮影や編集等と分野を限定せず、広範囲に渡り業務を担当 している企業、学生の就業先となり得る連携すべき企業を選択する事。
②「現場が必要とする人材」を最も効果的に育む事ができる、現場の一線で活躍している企業や外部講師から助言をいただき、それを
　積極的に反映させていく事。
③実習・演習授業において、授業回毎の具体的な内容や、学生の習熟度を鑑みながらの教育の程度・水準等について、学内の学科担当職員と議論や意見交換を図る等、同企業との連携を図りながら授業を担当していただく事。
以上3項目を、企業等との連携に関する基本方針としている。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

本学科1年次では、撮影や編集、映像信号・画質管理等の放送・映像技術に関わる各分野において、将来の高度な実践力を
身につけるための実習・演習授業を実施している。各分野の職種や業務に従事している企業と連携し授業を担当いただき、
学生の理解度に応じたトレーニングを施しながら、指導内容の習熟度や関連知識の理解度等を勘案しながら学修成果の評価を
実施していただいている。
2年次では、隣接する他職種の知識や技術を理解しながら、さらに実践力を高めるために、作品制作系の総合的な実習・演習を実施。
各分野の一戦で活躍している企業と連携し授業を担当いただき、学修成果の評価を実施していただいている。
また、連携企業や外部講師を招聘し、学科担当職員全員・就職担当職員との懇談の場である講師会を実施。連携企業や講師との
意見交換と情報共有を図り、各担当授業のシラバスや具体的な実習・演習内容を検討したり確認したりしながら、教育課程の充実と
教育内容・学校職員の質向上に努めている。
上記会議体のみならず、連携企業や協力いただいている外部講師とは、定常的に当該現場の動向や変化、学生の資質等の情報を
交換しながら、細やかな話し合い・コミュニケーションを通して、上記主旨同様の効果を図るための対策を常に施している。

（3）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	科　目　概　要	連　携　企　業　等
シナリオ基礎	映像作品には不可欠なシナリオの位置づけと役割を学ぶ。 シナリオ独特の書き方を理解すると共に基礎を身につける。	株式会社ダブルフォックス

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
本校では「東放学園 教員研修規程」として教員研修の目的、方針、教員の責務、報告などの事項を定めており、教員の業務経歴や能力、担当する授業科目等に応じ、専攻分野の実務に関する知識、技術、技能並びに、学生に対する指導力等、教員の能力及び資質等の修得・向上を図るため、適宜、企業等と連携した研修を行うことを基本方針としている。

（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針
※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

①業界の多様化に併せる事を目的とした映像技術全方位的な教育、技術革新と多様化が進む現場に対応する教育等を重点項目としている
　本学科において、これらの目的を達成するため、映画・テレビ・インターネット、撮影や編集等と分野を限定せず、広範囲に渡り業務を担当
　している企業、学生の就業先となり得る連携すべき企業を選択する事。
②「現場が必要とする人材」を最も効果的に育む事ができる、現場の一線で活躍している企業や外部講師から助言をいただき、それを
　積極的に反映させていく事。
③実習・演習授業において、授業回毎の具体的な内容や、学生の習熟度を鑑みながらの教育の程度・水準等について、学内の学科担当
　職員と議論や意見交換を図る等、同企業との連携を図りながら授業を担当していただく事。
以上3項目を、企業等との連携に関する基本方針としている。

（2）研修等の実績
①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	映画脚本読み込み講座	連携企業等:	特定非営利活動法人 映像産業振興機構
期間:	2024年3月27日～3月28日	対象:	映画制作科専任教員
内容	シナリオライターによる、シナリオライターだけでなく映画に関わるスタッフに向けた作品作りの為のシナリオの読み込み講座。		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	分かりやすい説明の仕方研修	連携企業等:	株式会社インソース
期間:	2024年2月3日	対象:	東放学園全教職員
内容	学生指導、保護者対応、関連企業団体等とのコミュニケーションを図る上で最も重要とされることでもあり、 説明の仕方は、担当授業においても十分活かせるものである。 教職員としてのスキルアップのための研修としている。		

（3）研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	InterBEE2024	連携企業等:	一般社団法人 電子情報技術産業協会
期間:	令和6年11月13日～15日	対象:	映画制作科専任教員
内容	放送・映像・音響・照明機器の最新技術展。今後各業界で主流となる機材の視察と、性能の理解を目的。今後の業界の動向や、授業にて使用する機材の選定（学生たちでも扱える）も兼ねる。		
研修名:	DaVinci Resolveトレーニング	連携企業等:	Blackmagic Design
期間:	2024年12月21日（オンライン）	対象:	映画制作科専任教員
内容	DaVinci Resolveの基礎的なカラーページの操作方法　①プロジェクトのアーカイブの復元②操作画面の説明③ホイールの操作方法・ノードについて④カーブを使った操作⑤カラーマッチを使用したカラーコレクト方法⑥手動でカラーコレクトする方法⑦パワーウィンドを使用して一部分修正する⑧ビネット⑨クオリファイアーによる変更方法⑩クロリファイアーの逆指定		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	論理的で分かりやすい文書の書き方研修	連携企業等:	株式会社インソース
期間:	2025年1月15日	対象:	映画制作科専任教員
内容	●文章作成のポイント ●分かりやすい文章を知る（文章の基本） ●論理的な構造を組み立てる ●納得できる内容で書く　など		
研修名:	ロジカルシンキング研修	連携企業等:	株式会社インソース
期間:	2024年9月20日	対象:	映画制作科専任教員
内容	「ロジカル（論理的）である」ということは、筋道が通っていて、矛盾がないことを指します。あいまいな表現を避け、相手の立場に立ったわかりやすいコミュニケーションをすることはビジネスにおいて非常に重要です。 ロジカルシンキングのフレームを学ぶだけでなく、思考法を実際にビジネスの現場で使えるようになっていただきます。また、ワークは具体的かつ身近なテーマで構成されており、研修が進むにつれて無理なくロジカルシンキングを身につけることができます。		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（1）学校関係者評価の基本方針
（法人の基本方針）
①教育の一層の充実を図り、学校の目的および社会的使命を達成するため、各校における教育活動等の状況について定期的に関係者評価を行い、随時改善を図ることを目的とする。
②学園は充実した学校評価制度の構築に努め、各校・各部門はこれを実施する体制を整える。
③各校・各部門は、情報公開を念頭に揚げ、より高い基準を設定し関係者評価を実施する。

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
（1）教育理念・目標	使命、行動指針、教育方針、理念、目的、育成人材像
（2）学校運営	運営方針、事業計画、運営組織、人事・給与制度、意思決定システム、情報システム
（3）教育活動	目標の設定、教育方法・評価等、成績評価・単位認定等、資格・免許取得の指導体制、教員・教員組織
（4）学修成果	就職率、資格・免許の取得率、卒業生の社会的評価
（5）学生支援	就職等進路、中途退学への対応、学生相談、学生生活、卒業生・社会対応
（6）教育環境	施設・設備、学外実習、インターンシップ等、防火・安全管理
（7）学生の受入れ募集	学生募集活動、入学選考、学納金
（8）財務	財務基盤、予算・収支計画、監査、財務情報の公開
（9）法令等の遵守	関係法令・設置基準の遵守、個人情報保護、学校評価、情報公開
（10）社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献の取組み、ボランティア活動の取組み
（11）国際交流	

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）学校関係者評価結果の活用状況
委員会での結果を活用し、教育活動及び学校運営の質の保証と向上に継続的に努めるための改善措置を随時行っている。委員の意見やアドバイスを尊重し「即対応」「計画的対応」などを検討し、可能な限り改善を行っている。（カリキュラムの改革、機材の購入、教員のスキルアップ等）特に、時代に合わせた社会人向け教育や、卒業生の早期退職者フォローにも活かせる内容を試みている。
【映画制作科について】※教育と提供する人員の変遷期である。現場との関係性を重視していく。
[意見]中途退学者が他の学科に比べて多いがその対策は講じているか。
[改善策]教育的観点からすると、ただ映画が好きということだけで入学してからどうにかなると考えている学生と入学時から意識の高い学生との格差が生じている。専門学校として同じ環境の中で結果を出していくにはカリキュラムの再構築が必要と感じ、以後3年を目安に教育課程編成委員会でのご意見も踏まえて再検討していく。学生ケアの観点からは、近年はコミュニケーションの苦手な学生もおおくいるため、その対応も毎年検討している。カウンセラーなどの対応においても姉妹校とも連携し連携を図るため現状を見直す。
[意見]映画業界はフリーランスで就業する形態が多いが、学生たちにはそのメリット、デメリットが伝わっているか。
[改善策]映画業界にかかわらず、クリエイター系業界でフリーランスとして働くことは、現状多く見られるため、授業科目の中で必要な知識は伝えている。更に、今後は卒業後間もない若手をゲストなどで紹介し、その活動ぶりをリアルにイメージできるよう検討していく。
[意見]留学生の割合が比較的多く見られる学科でもあるが、引き続き新型コロナウイルスの影響などはないか。
[改善策]本校入学前の日本語学校でも、対面式からオンラインでの受講となったこともあり以前と比較しても低下しているのは明らかであるため、学園内のInternationalcenterと対策を検討している。

（4）学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名　前	所　　属	任期	種別
月野木 隆行	学校法人東放学園　元理事 学校法人東放学園 東放学園専門学校 元校長 学校法人東放学園 東放学園映画専門学校 元校長	令和5年4月1日～令和7年3月31日（2年）	教育・学校運営に関する有識者

浅井 千瑞	株式会社 メディアミックス・ジャパン 制作演出部部長、プロデューサー	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	就職先及び関連業界関係者
加藤 亮一	株式会社 studio K	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	就職先及び関連業界関係者
竹内 一仁	東京都立小岩高等学校 2学年主任 主幹教諭	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	高等学校教諭
反町 恵里菜	2016年 小説創作科 卒業生	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
(ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ))
URL: https://www.tohogakuen.ac.jp
公表時期: 令和6年5月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
認可された教育機関として、社会への説明責任を果たすとともに、教育の質保証・向上の観点から、学生、保護者、地域住民、関連業界企業等に教育活動や学校運営の状況に関する情報を提供する。また、同窓会組織や東放学園キャリアサポートセンターと連携を図り、卒業生や企業等から積極的に意見を聴取して、業界のニーズを反映した教育環境の整備や教育課程の編成に努める。

（2）「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
（1）学校の概要、目標及び計画	基本理念、使命、行動指針、教育方針、学園概要、沿革、お問い合わせ
（2）各学科等の教育	募集学科、募集定員、出願資格、学科紹介、学びのポイント、おもなカリキュラム、資格取得
（3）教職員	学園概要（校長名、教員数）
（4）キャリア教育・実践的職業教育	就職・デビュー支援
（5）様々な教育活動・教育環境	部＆クラブ活動紹介、機材・設備
（6）学生の生活支援	学生寮
（7）学生納付金・修学支援	学費、奨学制度・教育ローン
（8）学校の財務	情報公開（財務情報）
（9）学校評価	情報公開（自己評価報告書、学校関係者評価報告書）
（10）国際連携の状況	
（11）その他	

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）情報提供方法
（ホームページ）・ 広報誌等の刊行物 ・ その他（ ））
URL: https://www.tohogakuen.ac.jp
公表時期: 令和6年5月1日

授業科目等の概要

#REF!

	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1			○	進路対策講座Ⅰ	就職活動の準備として業界研究から面接対策、保険や年金についてなどを幅広く学ぶ。社会の仕組みを知り、社会人としての基本的なマナーを身につける。	1通	30	○	○			○		○		
2	○			演出基礎	映画作りの基礎を学ぶ。様々な作品をモチーフに、演出や撮影の技法、効果などを分析し、意見交換を行う。	1前	60	○	○			○			○	
3	○			作品鑑賞Ⅰ	映画制作を志す者として、最低限観ておくべき映画等を鑑賞して、それについてのレポートを書くという行為を繰り返すことにより、映画を作る為の感性を磨く。	1前	60	○	○			○		○		
4			○	作品鑑賞Ⅱ	映画制作を志す者として、最低限観ておくべき映画等を鑑賞して、それについてのレポートを書くという行為を繰り返すことにより、映画を作る為の感性を磨く。	1後	60	○	○			○		○		
5			○	映画史（オン・デ・マンド）	約130年の映画の歴史の中で、各年代毎に映画史上に於ける重要なトピックスを紹介しつつ、「映画とは何か？」を考える一つのきっかけになればと思っています。※本授業はオン・デ・マンド配信型になります	1前	30	○	○			○		○		
6			○	映画業界講座Ⅰ	映画・放送業界で働く卒業生をゲストに迎え、「卒業後にどんな仕事内容をするのか？」「在学中にどう考えて今の仕事に就いたのか？」を聞き、自身の卒業後のイメージをつくることを目的とする。	1後	15	○	○			○		○	○	
7	○			映画基礎演習	脚本、演出、制作、撮影、照明、録音、編集など各パートの職域を理解すると共に、映画制作全体の流れを理解する。	1前	60	○		○		○		○		
8	○			シナリオ基礎	映像作品に必要不可欠なシナリオの位置付けと役割の基礎を学ぶ。シナリオという独特の形式を学び、基本的な書き方をマスターする。	1前	30	○		○		○			○	○
9			○	編集基礎	編集の基本操作から合成の基礎、カラーグレーディングの基礎等を学ぶ。プロが使用しているソフトウェアを使用して、映像編集の作業全般を理解し技術を習得する。	1前	30	○			○	○		○		
10			○	ゼミナールⅠ	作品制作の流れを理解し、スタッフの役割を知る。自主性と自由な表現を尊重した作品制作を繰り返し行う。	1前	30	○		○		○	○	○		
11	○			ドラマ制作	映画作りのプロセスを徹底して実践的に学ぶ。企画から撮影、編集、整音など映画制作全ての役割りについてプロのやり方を学ぶ。	1後	##	○		○		○	○		○	
12	○			制作基礎	映画製作ビジネスの全体像をカバーしながら、プロデューサーの具体的な役割、企画の立て方・作り方、脚本開発、制作予算の立て方、資金調達、配給宣伝、資金回収などを学びます。	1後	30	○	○	○		○			○	○
13			○	映画祭企画・運営Ⅰ	多くの人に自分たちの作った作品を観てもらう。様々な感想をもらい、様々な批評をもらう。作品と観客の橋渡しをする機会を企画しよう。また、外部の映画祭を見学し、特色などを知った上で、自分たちの映画祭を企画・宣伝・運営してみよう。	1後	30	○			○	○	○	○		
14	○			撮影基礎	映画の技術的な考え方の基礎を学ぶ。一年次の作品制作に必要な機材の基本的な取り扱い方を習得する。	1前	60	○			○	○		○		
15		○		映画スタッフゼミⅠ シナリオ演習Ⅰ	シナリオ三幕式構成法を理解し、オリジナルシナリオを描き上げる為の実作指導を行う。	1後	30	○		○		○		○		
16		○		映画スタッフゼミⅠ 撮影実習Ⅰ	自分たちの想いをいかにして映像で表現していくか。この授業では、実際にデジタル４Ｋキャメラや16㎜フィルムキャメラを使用し、撮影における知識と技術を学んでいきます。	1後	75	○			○	○		○		
17		○		映画スタッフゼミⅠ 録音実習Ⅰ	現代の新しい録音、音響の知識を深め、映画というクオリティーの中での表現方法を理解して、実践してもらうことを目的としています。	1後	60	○			○	○		○		
18		○		映画スタッフゼミⅠ 照明実習Ⅰ	照明とは、その場の空間、時間、設定などを作り出し、物や人の見え方や印象を変えることが出来る特殊な仕事です。カメラの性能が日々進化している中、どういう表現や演出を付けていくかを学びましょう。	1後	60	○			○	○		○		
19		○		映画スタッフゼミⅠ 編集実習Ⅰ	卒業後、編集の仕事に就いた時、必ずアシスタント業務から始まるので、そこではどんな作業をするのかその意味も含め理解してもらいたいです。その上で、自分なりの編集をし、面白さを感じてもらいたい。	1後	60	○			○	○		○		
20			○	ProTools（短期集中）	録音・編集・ミキシング等の音声に関わるすべての機能を備えた総合システムPro Tools。今や殆どのスタジオに導入されているProToolsの基本知識、基本操作を習得する。	1短	30	○			○	○			○	
21			○	助監督基礎（短期集中）	助監督はカチンコを叩くだけではなく、撮影前の書類作りや、各部署と連携を測りながら準備を進め、撮影が始まれば円滑に進むように現場を回す。今後の作品制作に生かせる実践的な役割や仕事を学びます。	1短	15	○			○	○			○	
22			○	卒業制作（撮影応援Ⅰ）	２年生の「卒業制作」作品に応援として参加。自身のスキルアップを目指す。	1短	60	○		○	○	○	○		○	
23			○	スクリプター講座Ⅰ	スクリプトのやり方を現役のスクリプターの方に習いながら撮影実習で実際にスクリプトしてみましょう。	1短	15	○			○	○			○	
24			○	進路対策講座Ⅱ	就職活動における各種準備を指導していく。履歴書やエントリーシートの書き方、ポートフォリオ講座等の基礎的なことから、ビジネスマナー等、社会人としての常識を身につけ進路決定を目指す。	2前	30	○	○			○		○		
25			○	進路対策講座Ⅲ	卒業後の進路決定に向け、業界関連企業の説明会と個人面談をベースとして進める。進路相談なども行い、それぞれの志望に合った進路を一緒に考えていく。	2後	15	○	○			○		○		
26			○	サウンドデザイン	なぜ映像作品に効果音が必要になるのかということを理解し、音による映像演出を学ぶ。	2前	30	○	○			○		○		
27			○	映画業界講座Ⅱ	Ⅰで業界のイメージを作った上で、長く映画や放送業界で働いている卒業生をゲストで迎え、長く業界で活躍するためのポイントを学ぶ。	2前	15	○	○			○		○	○	

28			○	映画と時代背景	映画を通して、それぞれの作品が生まれた時代背景や、斬新なアイディアを実現する工夫を知ることによって、先人たちの考えを理解することを目標としている。	2 前	45	○	○			○		○	○	
29			○	卒業制作 （グループ制作）	2年間の授業の集大成としてゼミ形式でおこなう演習。15名程度のグループに分かれて、20～30分程度の映画を制作する。	2 通	##	○		○		○	○		○	
30			○	卒業制作 グループ制作 ※監督/仕上げ担当　特別追加分	卒業制作グループ制作において監督や、編集、録音等のポストプロダクション作業を行う	2 後	90	○		○		○	○		○	
31			○	卒業制作 （撮影応援Ⅱ）	「卒業制作」作品に応援として参加。自身のスキルアップを目指す。	2 短	60	○		○	○	○	○		○	
32			○	卒業制作 （個人制作）	講師指導の基プロット、シナリオを作成し、10分～15分程度の映像作品を制作する。	2 前	##	○		○		○	○		○	
33			○	卒業制作 （シナリオ実作）	2年間の授業の集大成として映像作品のシナリオを執筆する。分量は400字詰め原稿用紙120枚程度とし、優秀作品は「卒制シナリオ集」に掲載する。	2 通	##	○		○		○			○	
34			○	映画祭企画・運営Ⅱ	多くの人に自分たちの作った作品を観てもらう。様々な感想をもらい、様々な批評をもらう。作品と観客の橋渡しをする機会を企画しよう。また、外部の映画祭を見学し、特色などを知った上で、自分たちの映画祭を企画・宣伝・運営してみよう。	2 後	30	○			○	○	○	○		
35			○	富田Base	映画制作を学んで、構想はあったが作れなかった作品に対して、アイデアをアイデアのまま終わらすのではなく、作品として形にしてみる。映画祭やミライの監督としてのデモリールとなる作品制作を目的とする	2 後	60	○		○	○	○			○	
36		○		映画スタッフゼミⅡ （撮影実習Ⅱ）	1年次の「撮影実習Ⅰ」での基礎的撮影技法を踏まえ、Blackmagic URSAや、SONY PXW-FS7・FS5などのカメラを用い、撮影をしながら実践的画作りについて考え学びます。	2 前	90	○			○	○			○	
37		○		映画スタッフゼミⅡ （照明実習Ⅱ）	ライティングの意味を知り、的確な表現に結び付けるために、機材を駆使して実践的応用テクニックを身につける。	2 前	60	○			○	○			○	
38		○		映画スタッフゼミⅡ （録音実習Ⅱ）	マイクの種類や特性、録音の技法等、新しい録音・音響の知識を深める。映画という高いクオリティーの中での表現方法を理解すると共に、実践できるようになることを目的とする。	2 前	60	○			○	○			○	
39		○		映画スタッフゼミⅡ （編集実習Ⅱ）	現在オフライン編集機としていちばん使われているAvid Media Composerの基本的な操作を習得すると共に、映像表現の基本的な考え方を学ぶ。	2 前	60	○			○	○			○	
40		○		映画スタッフゼミⅡ （シナリオ演習Ⅱ）	シナリオを書く際の考え方やストーリーの作り方、構成などを学んでいく。オリジナルのシナリオを書き上げることを目的とする。	2 前	60	○		○		○			○	
41			○	ショートフィルム制作	所定の台本を実際に映像化するまでを体験する。キャスティング、小道具・衣装、ロケ地選定、スケジューリング、そして演出プランの作成から現場での撮影までを、各部署に分かれて実践的に学んでいく。	2 前	80	○		○		○	○		○	
42			○	ショートフィルム制作 監督・仕上	ショートフィルム制作において、監督や編集、録音等のポストプロダクション作業を行う。	2 前	30	○		○		○	○		○	
43			○	ゼミナールⅡ	作品制作の流れを理解し、スタッフの役割を知る。自主性と自由な表現を尊重した作品制作を繰り返し行う。	2 前	30	○		○		○	○	○		
44			○	特撮・ＶＦＸ実習	グリーンバック撮影等、特殊撮影の技法や、４Kカメラの仕組みを学ぶ。限りなく自由な発想で「特撮」の現場作業について学んでいく。	2 後	60	○			○	○			○	
45			○	特撮・ＶＦＸ実習 監督・仕上げ	特撮・VFX実習において、監督や編集、録音等のポストプロダクション作業を行う。	2 後	60	○		○		○			○	
46			○	ゼミナールⅢ	シナリオとは何かという基本から、発想法やテーマの選び方等、シナリオテクニックの応用を学び習得する。	2 後	80	○		○		○			○	
47			○	３ＤＣＧ	3DCGソフト「maya」を使用し、簡単なCGを作成する。3DCGの基礎を理解すると共に、VFXの一要素としての3DCGの役割を理解する。	2 後	30	○			○	○		○		
48			○	After Effects （短期集中）	Adobe社の「After Effects」を使用し、モーショングラフィックスとビジュアルエフェクトの基礎を学ぶ。多彩なビジュアルエフェクトを理解すると共に、映像合成のテクニックを習得する。	2 短	30	○			○	○			○	
49			○	映画制作合同実習 （短期集中）	限られた撮影時間の中で、どのような事を大切にして撮影を進めていくのかを実践形式で行う授業です。	2 短	30	○			○	○	○		○	
50			○	フィルム実習 （短期集中）	フィルムの基礎を知る事により、フィルムというメディアを使って撮影されてきた映画をより知ることが出来る。また、フィルムの質感や特徴を知って表現や知識の幅を広げよう。	2 短	30	○			○	○			○	
51			○	映画制作セミナー （短期集中）	進路を見据えて現場に出る前に、業界でも実績の多いベテラン講師陣とともに、制作することで、映画作りの真髄を学ぶ。	2 短	15	○			○	○			○	
52			○	スクリプター講座Ⅱ （短期集中）		2 短	15	○			○	○			○	
合計					52　科目		2140　単位（単位時間）									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	①期日迄の学費納入、②必修科目を含む年間800時間以上、卒業時1700時間以上の修了認定	１学年の学期区分	2 期
履修方法：	初回の授業（ガイダンス）で内容を確認し、期日迄に履修科目の登録を行う。	１学期の授業期間	15 週

（留意事項）

1　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。